２愛防第 24-7 号
令和２年 12 月 28 日

各関係機関・団体長　様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、１月の予察情報を送付します。

病害虫発生予報（１月）

令和２年 12 月 28 日
愛　　媛　　県

１　気象予報（高松地方気象台）
　１か月予報（令和２年 12 月 17 日発表）の解説
　向こう１か月の天候の見通し　四国地方（12 月 19 日～１月 18 日）

＜　１か月の平均気温・降水量・日照時間　＞

	平均気温（１か月）	降水量（１か月）	日照時間（１か月）
四国地方	低 40 並 30 高 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み

＜ 予報のポイント ＞
　向こう１か月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。高気圧に覆われやすいため、向こう１か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

２　病害虫の発生予想
　野　菜
　(1)　黄化えそ病（冬春きゅうり）
　　ア　予報の内容　　発生量：やや少
　　イ　予報の根拠
　　(ｱ) 12 月中旬の調査では、やや少の発生である。また、媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生もやや少である。
　　(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並とされており、媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生は、現在の発生傾向が続くと考えられる。
　　ウ　防除上の注意
　　(ｱ) 発病株は直ちに抜き取り適正に処分する。
　　(ｲ) 媒介虫の卵・蛹には薬剤の効果が劣るので、発生圃場では、発生に応じて２～３回、連続散布する。
　　(ｳ) 媒介虫は雑草等でも増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

　(2)　べと病（冬春きゅうり）
　　ア　予報の内容　　発生量：並
　　イ　予報の根拠
　　(ｱ) 12 月中旬の調査では、並の発生である。
　　(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。
　　ウ　防除上の注意
　　(ｱ) ハウス内の換気を十分に行い、多湿を防止する。
　　(ｲ) 成り疲れ、肥切れは発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。
　　(ｳ) 老化葉や発病葉は早めに除去する。
　　(ｴ) 発病初期の防除に重点を置き、薬液が葉裏の菌叢に十分かかるよう丁寧に散布する。

　(3)　褐斑病（冬春きゅうり）
　　ア　予報の内容　　発生量：少
　　イ　予報の根拠
　　(ｱ) 12 月中旬の調査では、少の発生である。

(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。
ウ　防除上の注意
(ｱ) ハウス内の換気を十分に行い、多湿を防止する。
(ｲ) 草勢低下、窒素質肥料の過多は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。
(ｳ) 老化葉や発病葉は早めに除去する。
(ｴ) 発病初期の防除に重点を置き、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(4)　うどんこ病（冬春きゅうり）
ア　予報の内容　　発生量：やや少
イ　予報の根拠
(ｱ) 12 月中旬の調査では、少の発生である。
(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、発生にやや助長的である。
ウ　防除上の注意
(ｱ) 老化葉や著しく発病した葉を除去し、薬剤の付着性を高めるとともに伝染源を減少させる。
(ｲ) 薬剤散布に当たっては、展着剤を加用し、葉表だけではなく葉裏にも薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(5)　うどんこ病（冬春いちご）
ア　予報の内容　　発生量：やや少
イ　予報の根拠
(ｱ) 12 月中旬の調査では、少の発生である。
(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、発生にやや助長的である。
ウ　防除上の注意
(ｱ) 発病葉・果実や古葉はできる限り除去し、伝染源の除去、通風の確保と薬剤の付着性を高める。
(ｲ) 今後、果実発病が中心となってくるため、発病初期の防除に重点を置く。
(ｳ) 同一系統の薬剤の連用は避ける。

(6)　灰色かび病（冬春トマト、冬春きゅうり、冬春いちご）
ア　予報の内容　　発生量：並
イ　予報の根拠
(ｱ) 12 月中旬の調査では、並の発生である。
(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。
ウ　防除上の注意
(ｱ) ハウス内が多湿にならないように、できる限り換気を図る。
(ｲ) 過繁茂や軟弱な成育は発病を助長するので、適正な潅水や肥培管理に努める。
(ｳ) 果実に付着した花がら、発病果や枯死茎葉は早めに除去する。
(ｴ) 発病初期の防除に努める。同一系統の薬剤の連用を避ける。

(7)　ハダニ類（冬春いちご）
ア　予報の内容　　発生量：やや多
イ　予報の根拠
(ｱ) 12 月中旬の調査では、やや多の発生である。
(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並とされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。
ウ　防除上の注意
(ｱ) 圃場観察を行い早期発見に努め、発生が見られたら早めに防除する。
(ｲ) 同一系統の薬剤の連用を避け、気門封鎖剤を含む系統の異なる薬剤のローテーション使用及び掛けムラがないように丁寧に散布する。
(ｳ) 天敵を導入している圃場ではカブリダニ類やミツバチの活動に影響の少ない薬剤を選択する。

(8) アブラムシ類（冬春いちご）
ア　予報の内容　　発生量：多
イ　予報の根拠
(ｱ) 12 月中旬の調査では、多の発生である。
(ｲ) 気象予報では、気温はほぼ平年並とされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。
ウ　防除上の注意
(ｱ) 圃場観察により早期発見に努め、発生が見られたら早めに防除する。

(ｲ) 天敵を導入している圃場ではカブリダニ類やミツバチの活動に影響の少ない薬剤を選択する。

(9) コナジラミ類（冬春トマト、冬春イチゴ）

ア 予報の内容　　発生量：やや多～多

イ 予報の根拠

(ｱ) 12 月中旬の冬春トマトの調査では、タバココナジラミの発生は 1 圃場のみの発生であるが、多の発生である。

(ｲ) 12 月中旬の冬春イチゴの調査では、オンシツコナジラミが多、タバココナジラミがやや多の発生である。

(ｳ) 気象予報では、気温はほぼ平年並とされており、現在の発生傾向が続くと考えられる。

ウ 防除上の注意

(ｱ) 薬液が葉裏までかかるように定期的な薬剤散布を行う。

(ｲ) 薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。

(ｳ) 本虫は、多くの植物に寄生するため、圃場内外の除草を徹底する。

(ｴ) ハウス開口部に防虫ネット（目合い 0.4㎜ 以下が望ましい）を被覆し、コナジラミ類のハウス内への侵入を抑制する。

(ｵ) タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するので発生に注意する。

【病害虫発生予察情報】

愛媛県病害虫防除所ホームページでご覧になれます。

ホーム ＞ 仕事・産業・観光 ＞ 農業 ＞ 鳥獣害・病害虫対策 ＞ 愛媛県病害虫防除所

ホームページアドレスは、

http://www.pref.ehime.jp/h35118/2406/byocyubojo/index.html

【農薬使用時の注意】

◎農作物の安全性を確保するため、農薬使用にあたっては、適用作物、使用回数、使用時期、使用濃度、使用量、使用方法等の使用基準を遵守しましょう。

◎農薬を使用する際、農薬のラベルに記載された登録内容、使用上の注意事項等を遵守し、農薬の散布にあたっては、農薬の種類に応じた保護具を必ず装着しましょう。

◎農薬による防除のみに頼らず、耕種的防除法、物理的防除法及び天敵導入等を積極的に取り入れた総合防除を推進しましょう。

◎農薬の保管管理や取り扱いに注意し、紛失、盗難等の未然防止を図りましょう。